



南小児童のこころのふるさと 「ちから山」 について！

令和4年が始まりました。オミクロン株が心配な面もありますが、子供たちが元気に学校に通うことができ、充実した教育ができることを願っています。

令和4年(2022)、南小は創立150周年を迎えます。明治



5年(1972)吉原守拙先生(上の写真)が初代校長として招かれ「開心庠舎(かいしんしょうしゃ)」が開設されました。様々な時代を経て今日に至ります。南小学校は三島で一番歴史のある伝統校です。

「ちから山」について

昨年末「ちから山」No.7でお知らせしたとおり、老朽化により現在使用禁止となっています。今回は「ちから山」ができていきさつ、造った時の苦労等を、創立100周年記念誌「百年のあゆみ」から紹介します。元PTA会長の鈴木一男氏が綴った「南小PTAの文部大臣賞受賞とちから山」からの抜粋となります。(縦書きの原文を横書きにする為等一部修正あり。下線

は佐野による。以下抜粋)

運動場はPTAの奉仕作業により自慢の運動場だったが、それよりも子どもたちの、終業後遊ぶ場所といえば、学校の校庭より他に近在には遊ぶ場所がなくなってしまった。校庭の一隅にでも、何とか遊べる場所を、体力作りの出来る場所をつくらうということが、ちから山建設となった次第である。現在、仕上がった山を見ればなんでもないものだが、これに使用した土といい、石といい、大変な努力により集められたものである。会員の研修会でバス3台連ねて出発したら、その後ろに2台ものトラックが連なって来る。何かと思えば賀茂郡に名石があるから道々寄って探して来るという。また、持越金山で夕方なら石を取りに来てよいということからと貰いに行き、真夜中になって校庭の暗やみの中で落としている。このように準備して8月1日から日中では暑いからということで夜間作業とし、各町内別割当をした。

しかし、山や岩石園を作ろうということは決定して、図案では出来ていたが実際にぶつかって、どのような形態にするかは、全く未定だった。粘土で種々の形を作り、スベリ台を、この長さにしようと話し合って模型を

作って置けば、翌朝見ると変わっている。誰が直したのかと校庭を見ると、早朝から5、6人の方が石積みをしている。「昨夜寝てから考えたが、模型を変えたよ、あの方がよいだろう」



※上は作業中のちから山、真ん中は完成当時のちから山、下は現在のちから山の様子です。

という人もあったり、また、夕方、今晚の作業の方々が出て来るので、説明する為、粘土の模型を職員室に取りに行ったところ、先生方が、ああでもない、こいうでもないと原型は全く変

わっているのには驚いた。

いよいよ決定というのは、作業がはじまって三日目だった。それも基礎が当初の図案のように、一まわり仕上がったので、やっと決心がついたものである。

夜間作業は8月12日迄行い、三嶋大社の祭典のため、再度計画を立てることになっていたところ、誰が言うとなく「12日に完成しよう」という気持ちに全員が盛上がってしまった。それは五日の新聞に前述の文部大臣表彰が報道された為だと思うが（この年に南小PTAは文部大臣表彰を受けており、引用した原文の前半にそれについての記述があります。）、日中、三々五々、10~20人の人たちが自発的に作業に出てくださった。これには役員一同も驚き、家業もすておき、炎天下、朝8時から夜10時迄、ご婦人の役員は家族の食事の準備に帰るだけで、8月13日、計画以上の立派な山と岩石園を完成することが出来た。

ブルドーザーも借用したが、実に延人員1,300人以上の汗の結晶で、9月8日、神事により来賓多数のご臨席を得て、盛大な開場式を行った。(途中略)

ちから山の名称は、全校生徒より募集し、新谷の斉藤力君のものを採用したが団結の力で出来、児童に力をつける山であり、社会人となつての思い出になることを念願して付けられた。岩石園は、特に、天城の珍石である軽石を中央町原正登さんからいただき、築きあげてあるので大切に保存していただきたい。

(元PTA会長)

以上「百年のあゆみ」から抜粋した文です。途中にある写真は沿革誌に掲載されている物で、ちから山建設の様子やできたばかりの様子を偲ぶことができると思います。また、「百年のあゆみ」には「ちから山」ができた頃の子供たちの詩が掲載されていますので、紹介します。

ちから山のさか

昭和44年 2年生
ちから山のさかで、
おもいきり、
走りながら おりてきた
まるで
ひこうきみたい
かおに、風があたって
ビュービューという
さかからおりて
もうすぐに たおれそうだった
こわくなって
「たすけてーっ」
とさげんだ
そのまま じっとしていたら
さむくなっちゃった。

ちから山

昭和46年 1年生
ちから山へ
ついたじゅんにかけていった。
ちから山のかいだんをかけあ
しでのぼった。
てっぺんまできたら
かぜがものすごい いきおいで
ほっぺたに
びゅん びゅん あたった。
とっても こわかった。
すべりだいを すべったら
川むらくんが
いきなり すべってきたから
びっくりした
あっというまに ぶつかった。
川むらくんは、

「いていてっ。」
ていった。

ちから山

昭和47年度 1年生
ちから山に いった。
すべりだいで すべった。
先生が あたまをなでた。
わたしは
「ちゃっ。」
と こえを だした。
わたしは うれしかった。
ちから山は さむかった。
おしりが つめたかった。
でも たのしかった。

ちから山の老朽化は今に始まった訳ではなく、表面の土が流れたり、コンクリートが剥がれたりしていました。7~8年前に、学校支援地域本部（現373サポーターズ）、PTA役員、おやじの会の皆様による改修工事が行われました。御記憶にある方もいらっしゃると思います。

学校だより「ちから山」No.7でもお知らせしましたが、昨年の12月23日（木）に、PTA本部役員、地域の皆様と学校とで話し合いがもたれました。大筋でまとめたのは、「遊具としての「ちから山」ではなく、山としての形態は残し、安全に子供たちが登れる展望台のような物にしてはどうか。そうするためにはどの位の予算が掛かるか市と相談していく。」ということでした。（再掲）

現在教育総務課と相談をしています。

今後、これを読んでいる皆様にも御協力いただくことがあるかもしれません。その際はよろしく申し上げます。